

# 令和3年新春座談会



木山 耕三 市長  
きやま・こうぞう

企業3社と「相互協力基本協定」を締結しました。「暮らしの安心」では、4月、庄原赤十字病院産婦人科に常勤の医師が新たに赴任され、常勤医師2人体制となりました。また、庄原こども未来広場の小児科診療所・病児病後児保育施設・子育て支援施設に続き、庄原版のネウボラ「子育て世代包括支援センター」を設置することで、安心して子どもを産み、育てる環境のさらなる充実を図りました。

「にぎわいと活力」では、皆さんにご支援ご協力をいただき、庄原観光推進機構（庄原DMO）を設立したほか、10月には備後庄原駅舎、11月には駅前ロータリーが完成し、交通機関の結節点となっており、市民の皆さんにも

しっかり利用していただければと思います。現在も実証実験中のMaasについては、今後どういった形で充実させていくかというところで、皆さんには引き続きご支援をいただきたいと考えています。

佐々木 昨年の年初は、オンラインピックイヤー、令和最初の新年で、明るい年を信じていました。コロナに振り回された一年だったと思います。4月・5月の緊急事態宣言中は、経験したことがないような、異様な日常でした。特に飲食、観光、交通関係の皆さんは、経営に直撃し、大変な心配をされました。

そのような中、一市民の声掛けから始まった「備北テイクアウト応援プロジェクト」の輪がどんどん広がり、市民

の連帯感・絆が深まり、非常にうれしく感じました。

また、企業の倒産を心配しましたが、経営者の踏ん張り、国・県・市の手厚い支援のおかげで、今のところ、倒産はないと聞いており、ほっとしています。中でも庄原市独自の支援も会員企業から「非常にありがたい」という声を聞いており、会員を代表して、木山市長にお礼を申し上げます。

商工会議所は、約300件の助成・給付・融資のアドバイスなど、伴走型の支援を心がけ、会員のお役に立てたのではないかと考えています。

事業では、スマート農業の分野で地元酪農家と県立広島大学のマッチングをしたり、Z地区も地域を変えて、完全スマートフォン予約での社会実験をしたりと、IT化、デジタル化の中で進めています。Maasは利用者の評判も良く、早く実用化してほしいという声もあります。問題点を抽出し、市の協力を経て、全国に先駆けて実用化できたいと思っています。

一方で、これまで大好評だった高校生向けの就職ガイダンスが、コロナ禍により開



明けましておめでとうございます。新しい年がスタートしました。

今月は、令和3年への思いや新型コロナウイルス感染症の影響を受ける地域経済の活性化などをテーマに、庄原商工会議所会頭 佐々木満さん（写真右）、備北商工会会長 石川芳秀さん（写真左から2番目）、東城町商工会会長 後藤茂行さん（写真左）と木山耕三市長による座談会の様子をお届けします。

（取材日 12月3日）

―令和2年を振り返って、どのような年でしたか。

市長 令和2年は、平成30年・令和2年の豪雨災害から全力で復旧に取り組んでいる最中、新型コロナウイルスへの対応に終始した、大変苦しく、重い一年であったように思います。

感染症への対応は、4月に商工団体の皆さんと会議を開催し、連携した取り組みと事業者への支援についてご意見をいただきました。国の対策を含め、事業者支援を大変スムーズに対応できており、改めて皆さんのご協力に感謝申し上げます。

一方で、私は市長就任以来「地域産業」「暮らしの安心」「にぎわいと活力」を柱とした「庄原いちばんづくり」に取り組んでいます。その中で「地域産業」では、比婆牛のブランド化推進において、2月に西日本のサーブスエリアなどが提供する肉料理のコンテストで、七塚SAの「比婆牛」を使ったメニューが、「但馬牛」や「神戸牛」などを抑え、グランプリを受賞しました。

そして10月には、サテライトオフィスの開設を予定する



▲緊急経済支援策意見交換会

が、そのような中、備北商工会の管轄では、西城町の県民の森、つづいて比和町の吾妻山の休暇村といった大型の事業所の現状を、非常に残念に思っています。

そういうイメージがあるため、令和2年はいい年ではなかったと、総じて感じています。対面指導、個別指導と、できる限り、一生懸命取り組みましたが、コロナの勢いに打ち勝つことができなかったというイメージの年でした。



庄原商工会議所 佐々木 満 会頭  
ささき・みつる

―庄原市キャッシュレス決済推進プロジェクトについて何を期待しますか。  
**市長** このコロナ禍において、いかに事業支援をしていくのか、また、落ち込んでいく経済を回復させるかということ、このプロジェクトを提案していただきました。東城でいち早く立ち上げられ、注目されていきました。それを市内全域で行うことが果たしてうまくいくのかという気持ちもありましたが、商工団体の皆さんの協力で、本年3月にカードの利用開始の運びとなりました。さらに地域でお金が循環する仕組みを加速させるため、1万円分のプリミアムポイントを付与すること、市内経済の回復への効果を期待しています。

**後藤** このプロジェクトは、皆さんの協力なくしてはできないと思います。「みんなで協力してやろう」という気持ちが一番うれしいです。「隣の町に行って買い物をしてポイントが付く」というだけでも、一体感が出てくると思います。また、カードも、一体感が出るようなデザインですし、新しい庄原市が創出されるという期待が湧いてくるような事業になればいいと思っています。  
ポイント1万円が付与されるので、「GoToマイタウン」といった標語をつくって、「地元で使いましょう」と呼び掛けたいと思います。このシステムをどう利用していくか、みんなで勉強し、協力しながら進めていければと思います。

**石川** この事業は3団体連携の「庄原でいきいき働く協議会」で提案されたのがスタートであり、事業に着手できて本当によかったと心の底から感じています。事業効果を出していくため、商工会の会員もいろいろ考えるところです。会員にどれだけ協賛店として加入いただけるかが課題と考えますが、厳しい経営の中、この事業に参加し、どういう効果があるのかを説明するのが、我々の役割だと思っています。この事業には将来的な可能性があるので、ぜひ成功させたいと思っています。  
**佐々木** 経済循環というのが、できそうでできない。それが大きな課題でしたが、このカードはそれができるツールでもあります。市には1万円分のポイントの付与など、大きな投資をいただきましたが、本当に千載一遇のチャンスだろうと思います。スムーズに取り掛かることができるのも、先行実施されていた東城町商工会のおかげだと感謝の思いです。  
自分たちの地域は自分たちで守るとい思いを、商工団



▲かんぼの郷庄原

体だけでなく、市民の皆さんにも思ってもらえるように、会議所としても、雰囲気づくりをしていかなければいけないと思っています。  
―日本郵政から譲渡を打診されているかんぼの郷庄原について、どう考えていますか。  
**佐々木** 結論から申し上げると、ぜひとも早期に取得していただきたいと思っています。公設民営で、施設改修や運営戦略も見直して、新たな庄原の顔としてリスタートしていただきたい。会議所としても、資本増強をはじめ、しっかりとした支援を惜しまないという強い決意をもっています。施設譲渡および戦略的な改修という面で見れば、市には初期に大きな負担をお願いす

ると思いますが、観光面での相乗効果や波及効果、もちろん投資効果においても、十分リターンがあるのではないかと思います。  
もし市が取得しないことになれば、日本郵政は、民間へ譲渡を進めますが、そうすると約半年から1年間程度の休館も想定されます。雇用も喪失し、ダメージも大きくなるので、ぜひとも市に取得をしていただきたく強く思っています。  
**石川** 備北商工会としても、当商工会の役員の意見を聞きながら市による取得についての要望書を提出しました。観光の中心的な施設が消えるということは、経済団体としても非常に大きな打撃をうけるので、ぜひ市で取得していただきたい。かんぼの郷の周りには、インターチェンジや、上野総合公園、ゆめさくらなど、いろいろな施設があります。  
かんぼの郷だけの構想ではなく、庄原インターチェンジ付近の構想をつくり、その中で、かんぼの郷という施設が担う役割、周囲に生まれる相乗効果を整理していただければ



東城町商工会 後藤 茂行 会長  
ごとう・しげゆき

**後藤** 東城町商工会も同様に、職員が一丸となり、会員へのサービスに取り組んできました。

その中で、当商工会は、一昨年4月からキャッシュレス決済カード「ほろかカード」事業をスタートさせ、同年の10月から昨年の6月まで、国からの補助金で東城地域の皆さんに5パーセントのキャッシュレス還元をしました。これは大変好評でした。

備北商工会と同様に、昨年は、コロナ禍の中で、他の事業が実施できませんでしたが、当商工会には「ほろかカード」という武器がありましたので、独自にポイントを付与したり、ポイントを還元したりしながら、「町の中で買い物を楽しもう」「町の中で食事をしませんか」などと呼

―各地域のコロナの状況、今後の希望や展開についてお話をください。  
**市長** 商工団体の皆さんには、国の持続化給付金などの支援制度に対し、制度の周知や相談、申請支援において、積極的な取り組みと強力なサポートをいただき、スムーズ

び掛けるなど、それに特化して取り組みました。また、マイナポイントの普及のため、マイナポイントにも対応していただくと、地域内でほろかカードを普及させて、庄原市のマイナポイントの普及率を押し上げようと、コロナ禍の中ではありますが、カードのシステムを利用するなど取り組みを実施しました。

な申請につなげることができたと実感しています。市の独自支援策として商工関係では「雇用維持支援助成金」や「事業継続支援助成金」などに約4億円、「キャッシュレス決済推進プロジェクト」や「宿泊商品造成事業」などに約6億円を計上しています。これまでコロナ対策の事業費約51億4千万円を予算化しました。  
事業者の方からは「ありがたい」という声をいただいています。まだまだコロナ禍の影響は続くと思定されるため、引き続き、商工団体の皆さんの意見をお聞きし、しっかりと対策を実施したいと考えています。

**後藤** 東城でも旅館業や飲食業が大変な影響を受けておりました。今は何とか持ちこたえていても、この先の国の対策が不透明で皆さんが不安を感じています。市と商工団体が一緒に今後の展開を話し合っていければ、事業者の不安を払拭できるのではないかと考えています。  
**佐々木** コロナの影響は、GoToキャンペーンなどの効果で、売り上げは前年対比で7割から8割程度まで回復していたようです。ですがここに来て第3波の脅威と、1月、2月がもともと閑散期でもあり、大変心配しています。救いは企業にとつての命綱となっている持続化給付金が2月末まで延長の方向ということで、少しほっとしています。  
ただ、今後のコロナの感染状況によっては、業種や深刻

度合いによる、めりはりのある支援を、商工会議所連合会も含めて、国、県、市にお願いしたいと考えています。  
**市長** 今後の展開の話がありました。コロナ禍の中で密が少なくなると、庄原市の特性や良さを再確認して、将来につなげられるものを探し、そうした地域の財産をしっかりとPRすることで、市民はもとより市外の人にも選んでもらえるような、新しい生活様式に沿うサテライト勤務やワーケーションといった「新しい庄原生活」を売り込んでいきたいと考えています。  
そして、現在、令和3年度から5年間を期間とする長期総合計画の後期実施計画を策定していますので、計画の中で取り組みを示してまいります。



庄原市・株式会社瀬戸内ブランドコーポレーション・大地テクノロジーズ株式会社・株式会社pekaboo サテライトオフィス開設に係る相互協力基本協定 締結式



備北商工会 石川 芳秀 会長  
いしかわ・よしひで

ば、反対する人はいないと思  
います。

**後藤** かんぼの郷の件に関し  
ては、当会もいろいろと議論  
したのですが、やはり対岸の  
火事という見方ではなく、同  
じ市、まちの中で、こういう  
施設をしっかりと保つていか  
なければならぬと強く思  
うところなんです。東城地域に  
も、大きな宿泊施設がありま  
すが、もしそれがなくなると  
いうことになる、観光業が大  
変な被害を受け、大きな痛  
手を負うこととなります。こ  
うしたことから、市による取  
得を応援するべきだというの  
が、私たち東城町商工会の考  
えです。

**市長** 大変ご心配をかけてい  
ますが、ご承知の通り、一昨  
年「拠点をつくりたいとい  
う思いから、合同会社を立ち  
上げます。そして、ここをシェ  
アオフィスとコワーキングス  
ペースにして、この春から稼  
動させます。

また、庄原市は、人口減  
少の歯止めというのが何よ  
りも最優先です。とにかく  
地元で育った子が地元就職  
し暮らしてもらえよう、  
「地産地消」の考え方のもと、  
地元企業によるバーチャル企  
業説明会をしようと、取り組  
みを進めています。さらに、  
デジタル化を見据え、若年層  
に動画で企業説明を行えるよ  
う進めているところです。

**石川** 令和3年は、コロナ後  
遺症がまだ残っているような  
状態であろうと思えますの  
で、会員に向けて、しっかりと  
とフォローアップをしたいと  
思っています。市も非常に厳  
しい財政状況ではあります  
が、配慮をお願いしたいと思  
います。  
備北商工会は、令和3年度  
で、5カ年計画の経営発達支  
援計画の最終年度を迎えま

年の11月に日本郵政から、市  
へ譲渡したいという申し出を  
いただきました。本年の3月  
までには考え方を示したいと  
思っていました。コロナ禍の  
影響でかんぼの郷が一時休業に  
なるなどしたため、取得の判  
断を延期することになりました。

そういう中で、かんぼの郷の  
あり方や必要性について、市  
民や各団体の考え方などを  
伺いすると、「必要である」と  
いう意見を多くいただきました。  
しかし、コロナ禍の中でホテ  
ル業全体として経営は大変厳  
しく、取得するのであれば、課題  
問題点をしっかりと整理して、  
それを市民の皆さんにご理解  
いただかなければならないと  
考えています。

現在、専門家に経営分析を  
お願いしていますが、このコ  
ナ禍を経験した上で、分析結  
果を踏まえ、市民の皆さんな  
どから幅広くご意見をお聞き  
し、慎重に判断していきたいと  
思っています。

また、地域としては、市長  
が提案されている、高野から  
東城を結ぶ比婆いざなみ街道  
のブラッシュアップ、知名度  
の向上に力を尽くすことも  
に、まだまだ、たぐさんの宝  
が眠っていますので、そこを  
市と一緒にPRして、観光誘  
客や経済効果につなげてい  
きたいと考えています。

**後藤** 東城町商工会は、昨年  
経営発達支援計画が採択され  
ましたが、コロナ禍で支  
援事業が実施できていない状況で  
す。今年はまだ一度初年度と  
いう気持ちで取り組んでいか  
なければならぬと思ってい  
ます。  
そして、会員がコロナ禍で  
影響を受けていますので、そ  
れを支援していくため、職員  
のスキルアップを図り、会員  
を引っ張っていきけるような、  
強い商工会をつくりたいと考  
えています。

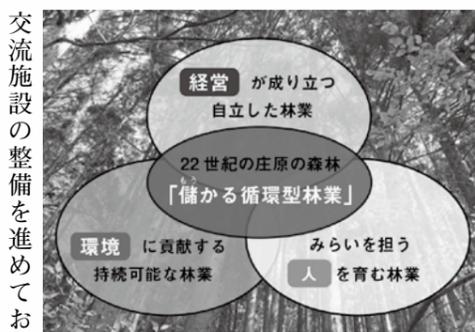
果を踏まえ、市民の皆さんな  
どから幅広くご意見をお聞き  
し、慎重に判断していきたいと  
思っています。

「令和3年の抱負についてお  
聞かせください。」  
**市長** まずは新型コロナウイルス  
感染症から市民生活を守  
り抜くため、引き続き関係機  
関と連携して取り組みを進め  
てまいります。

なお、冒頭でも述べました  
「庄原いちばんづくり」にお  
ける「地域産業」では、比婆  
牛のブランド化を推進してい  
ますが、県からも県内ブラン  
ド牛としてPRにお力添えを  
いただけることになっていま  
す。さらに、PR看板をマツ  
ダスタジアムに掲げ、比婆牛  
と庄原市を広くアピールした  
いと考えています。  
林業では、「22世紀庄原の  
森林ビジョン」に基づき、実  
施計画を策定しています。特  
に庄原市にはヒノキが多く、  
関係者から注目されており、  
「儲かる循環型林業」の実現  
に向けた取り組みを進めたい  
と考えています。また、森林  
体験、林間学校などの場とし  
て、旧古頃小学校へ森林体験

国の補助金・交付金の申請  
には、市と商工会の連携が不  
可欠となっています。市と商  
工会がしっかりと対話できる  
ような関係を築き、両者の連  
携を強化していきたいと思  
っています。また、影響を受け  
た会員や、まちを元気にする  
ためには、お金もかかるし、  
人材も必要ですので、そうい  
う部分をしっかりとサポート  
していきます。

事業主はみんな口をそろえ  
て「人がいない」と言われま  
す。ですから、サテライトオ  
フィスの誘致のほか、庄原市  
をしっかりとPRして、「庄原  
市に住居を構えたい」と言っ  
てもらえるように、官民一体  
となって取り組んでいかない  
といけないと思っていますの  
で、市には連携をよろしくお  
願ひします。



▲「22世紀庄原の森林ビジョン」が目指す姿

交流施設の整備を進めてお  
り、「未来を担う人を育む林  
業」の具体化に向けた取り組  
みを進めていきます。  
商工業の振興では、サテラ  
イトオフィスについて、庄原  
の魅力発信し、さらなる誘  
致に取り組みたいと思ってい  
ます。

「暮らしの安心」では、国が  
2050年にCO2の削減に取  
り組む中で、電気自動車等の  
活用ができないかと考えてお  
り、災害発生時には、公用車  
として電気自動車があれば、  
避難所へ発電機を持っていか  
なくても対応ができるのでは  
ないかな等を検討しています。  
また、放課後児童クラブ施  
設整備に取り組み、さらなる  
子育て環境の充実を進めてい  
くこととしています。

学校関係では、GIGA ス  
クール構想の実現に向け、小  
中学生に1人1台のタブレッ  
トを整備します。  
新焼却施設の整備も進めて  
おり、令和3年度末の完成予  
定で、さらなる安心安全で快  
適な生活環境の確保を図ります。  
「にぎわいと活力」では市  
民会館と庄原自治振興セン  
ターの大規模改修を進めてい  
ますが、いよいよ令和3年度  
から改修工事に着手します。

観光振興では古民家ステイ  
やアウトドアでのアクティビ  
ティの提案など、コロナ禍の  
中、「密」の少ない庄原市の  
強みを生かしたプロモーション  
にも取り組んでいきたいと  
考えています。

**佐々木** 人の縁というのが実  
はすごく大事だと、最近つく  
づく思います。庄原でいきい  
き働く協議会や、全国初の  
Mas、スマート農業、サテ  
ライトオフィスも含めて、実  
は庄原の人口問題をとことん  
考える民間会議が伏線となっ  
ています。そこで出てきた意  
見や、仲間がきっかけになっ  
ています。

このことから、人がつ  
ながり、知を育て、動きが始

な